福井新聞

2025年（令和7年）
3月11日
火曜日

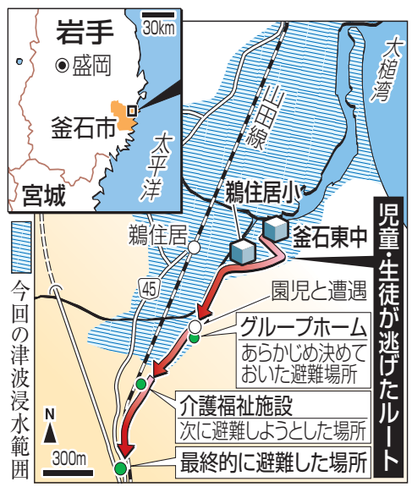
発行所
福井新聞社
福井市大和田2丁目801番地
郵便番号　910－8552
電話　0776(57)5111
https://www.fukuishimbun.co.jp
© 福井新聞社 2025年

お問い合わせは読者センターへ
☎0776(57)5140
（日曜・祝日を除く午前9時～午後5時）
福井新聞ご購読申し込み
0120-291-001
（日曜・祝日を除く午前10時～午後5時）

外科・胃腸科・肛門科・内科
胃がん・大腸がん検診　人間ドック　婦人科併設
医療法人 幸若会
打波外科胃腸科婦人科
院長 打波 大　副院長 打波 郁子
福井市文京7丁目10-2
TEL(0776)26-7171
https://www.uchinami.clinic-hp.com

津波避難 奇跡じゃない

釜石・小中生 生死分けた的確な訓練



釜石東中生らの避難ルートをたどる全国の教職員＝2月22日、岩手県釜石市

東日本大震災から11日で14年。死者・行方不明者2万2千人以上を出した戦後最大の自然災害は、午後2時46分に発生した。日中だったため、学校や職場で被災した人も多かった。福井県を含む全国の学校関係者35人が2月、宮城教育大防災教育研修機構が主催する「311教訓伝承・被災地視察研修」に参加し、岩手、宮城両県を巡った。子どもたちや住民の命を守るためにできることは何か―。語り部たちから当時の状況や教訓を学んだ。（近藤洋平）

「釜石の奇跡」―。東日本大震災で、岩手県釜石市の小中学生は99・8％が避難し無事だった。防災教育のたまものと、新聞やテレビが報じ、書籍化もされたことから広く知られる。

被災地視察研修の一行は2月22日、同市の防災学習施設「いのちをつなぐ未来館」の語り部、川崎杏樹さん(28)の案内で避難ルートをたどった。

約570人の児童生徒が被災した市立釜石東中と市立鵜住居（うのすまい）小は、海から約500㍍、海抜2㍍の場所に隣接して建っていた。

当時中学2年だった川崎さんは、部活動で体育館にいた。最初の小さな揺れを感じた時点で外に出ると、経験したことのない激しい揺れに襲われた。しゃがみ込み、地面につかまるようにひたすら耐えた。

「絶対に津波が来る」

生徒たちは校庭に集まり、教諭の指示を待たず整列と点呼を始め、避難を開始した。発生からわずか5分だった。

■　■　■

避難訓練で目的地にしていたグループホームは約800㍍先。海抜4㍍と低く、平らな道路は川に沿って延びていた。川崎さん自身、「大きな津波が来たら危ないんじゃないか」と感じていた場所だった。施設の裏山で崖崩れがあり、危険性を訴える地域住民の声で、到着後間もなく、さらに高台を目指すことになった。

中学生は小学生の手を引いて300㍍先にある海抜15㍍地点の別の福祉施設へたどり着いた。生徒たちの率先した動きは、教職員や迎えに来た保護者、地域住民らも巻き込み、最終的に計千人の避難行動につながった。

整列し点呼を取っていると津波が見えた。次から次へと家が崩れていく。冷たい風とともに潮と下水が混じったような臭いが漂ってきた。「一気にパニック状態になった」

滞在時間は3分。目の前まで津波が迫る中、さらに高台を目指したのは「先生に言われたからではなく、それぞれが危ないと判断して避難したというのが一番近い」と振り返る。海抜44㍍の峠まで約500㍍を「生きるか死ぬか。一番きつい坂道を全力で走った」。登りきった先で「津波から避難できた」とようやく安心できた。

■　■　■

「奇跡」と呼ばれた一連の避難行動は「日ごろの訓練で、きちんと地域や津波のことを理解したことが、具体的な手段につながった」と川崎さん。生徒だけで整列、点呼する〝決まり〟は「先生の指示待ちではいけない」と生徒が訓練の時に発案した。校庭では津波と同じ時速36キロの乗用車と競走したこともある。「どう頑張っても追いつかれる。来る前に高台へ逃げないとだめだ」と身をもって知っていた。

一方で、欠席していた児童生徒や避難途中で保護者に引き渡された子が亡くなった。学校の近くに2010年2月に完成していた地区防災センターでは、津波の避難場所ではないのに逃げ込んだ推定160人が11㍍の津波に襲われ犠牲になった。震災までの1年間で計8回、センターに逃げる訓練をしており「ここに逃げれば安全」という誤った認識が広まっていた。

訓練の積み重ねで助かったこと、身近で多くの犠牲が出たことから、地元では「奇跡」ではなく、「出来事」として語り継いでいる。

視察を引率した宮城教育大特任教授の武田真一さん(66)は「小中学校の成功例と合わせて伝えてほしい。避難は難しく、一つ誤ると100人単位の犠牲が出るということを持ち帰って」と教職員らに訴えた。

※次回から社会面に掲載します。

311教訓伝承・被災地視察研修　宮城教育大防災教育研修機構が2019年度、南海トラフ巨大地震など全国の災害警戒地域の教職員を対象に始めた。岩手県と宮城県の東日本大震災被災地を巡り、元教諭や語り部との対話を通じ、主に学校現場での教訓を学び、防災教育のあり方を考える。研修10回目の今回は2月21～24日、23都道府県から35人が参加して行われた。通算で39都道府県の計280人が参加している。

3.11 学校の教訓

① 福井の教員ら被災地視察

迫り来る津波から避難する釜石東中の生徒ら＝2011年3月11日、岩手県釜石市（いのちをつなぐ未来館提供）

東日本大震災きょう14年

関連死を含め2万2千人以上の犠牲者が出た東日本大震災は11日、発生から14年となった。地震発生時刻の午後2時46分、各地で犠牲者を追悼。石破茂首相は福島県主催の追悼式に出席する。

警察庁によると、2月末時点の全国の死者は1万5900人、行方不明者は2520人。復興庁によると、避難中に体調悪化や自殺で亡くなった震災関連死は24年末時点で3808人に上り、前年より6人増えた。

復興庁によると、全国で今なお約2万8千人が避難を余儀なくされている。

震災14年関連
3、8、13、28、29面

備蓄米入札開始

JA福井県は2千トン分

農林水産省は10日、政府備蓄米の放出に向けた初回入札を開始した。計15万トンを産地や品種などで分類し、それぞれ高値を付けた参加業者から順に落札する仕組み。全国農業協同組合連合会（JA全農）など大手集荷業者が参加したと表明しており、落札価格や十分な量が引き渡されるかどうかが焦点となる。落札されなかった分は、12日までに再び入札にかける。【4面に関連記事】

主要な流通経路を担うJA全農にコメが供給されれば、停滞が解消する可能性がある。コメの年間需要量は670万トンほどで、備蓄米15万トンは約2・2％に相当する。今回全量が落札されれば、1週間余りの需要を補うコメが放出されることとなる。

宇都宮大の小川真如助教（農業経済学）は「備蓄米がスーパーなどにうまく流通すれば、5キロ当たり3400円程度に落ち着くのではないか」と話した。農水省によると、全国のスーパー約千店のコメ販売価格は、2月24日～3月2日が前年同期と比べ94・6％高い3952円だった。

今月半ばに業者へ渡し、下旬にも店頭に並ぶ見通し。

JA福井県米穀販売課によると、同JAは備蓄米の対象銘柄のうち、福井県産のハナエチゼンとあきさかりで計約2千トン分の入札に参加した。

政府広報｜復興庁
東日本大震災で犠牲となられた方々への追悼をお願いします
3月11日、東日本大震災の発生から14年を迎えます。皆様には、午後2時46分から1分間の黙とうをお願いいたします。

越山若水

2025.3.11

「人間の証明」など数々のベストセラーを残した作家森村誠一さんは趣味が高じて「写真俳句」という一風変わった表現手法を提唱した。与謝蕪村が俳画を描いたように、句に写真を組み合わせると独特の世界ができるという▼東京から東北、北陸と「おくのほそ道」で俳聖が歩いた道のりをたどり2009年に旅を締めくくった。紀行文「芭蕉の杖跡（じょうせき）」としてまとめる際、東日本大震災が起きた。松島や三陸の被災を確かめるため12年に東北を再訪した。「島一つ壊れてもなお鷗（かもめ）飛ぶ」▼中国の洞庭湖や西湖にも負けぬ美景と松尾芭蕉が絶賛した松島は多くの島々が湾内にある。それが防潮堤となり津波被害は小さかった。小型の観光船で海に出た森村さんは以前と同じく群れ飛ぶウミネコが東北再生のシンボルに見えた。芭蕉も吟じなかった句にした▼岩手県陸前高田市では「奇跡の一本松」を見た。高田松原は芭蕉の時代にできた名勝だ。大津波に耐え唯一残った松が余生を最大限に生かすべく「毅然（きぜん）と立ち上がっている」姿を写真と俳句で写し取った。「風花や命いとしき松一本」「生き残り松の命に雪が舞う」▼陸前高田はボランティアの「チームふくい」が復旧支援した地。奇跡の一本松はあの日から14年間、復興へ奮闘する人々、街や景観の再生を見守ってきた。遠くにはあっても東北の今に心を寄せ続けたい。

きょうの1枚

「自慢の浜です」（27面）

落石に衝突したえち鉄車両移送　29面

勝山市遅羽町比島のえちぜん鉄道勝山永平寺線比島－発坂間で、2両編成の車両が落石に衝突し脱線した事故で同社は10日、脱線車両を勝山駅に移送し、軌道を点検補修する復旧作業を行った。「運転再開は12日以降になる予定」としている。

カード 電子マネー スマホ 決済OK
タクシー
0120-390-818

県内　防災備蓄品の有効活用探る　23面
ダムの魅力VR映像で発信　24面
経済　部活でITビジネス受注へ　6面
論説　東日本大震災の教訓　5面
■ひろば21面　■おくやみ、小説27面
■囲碁・将棋15面

慈しみの心　No.2011

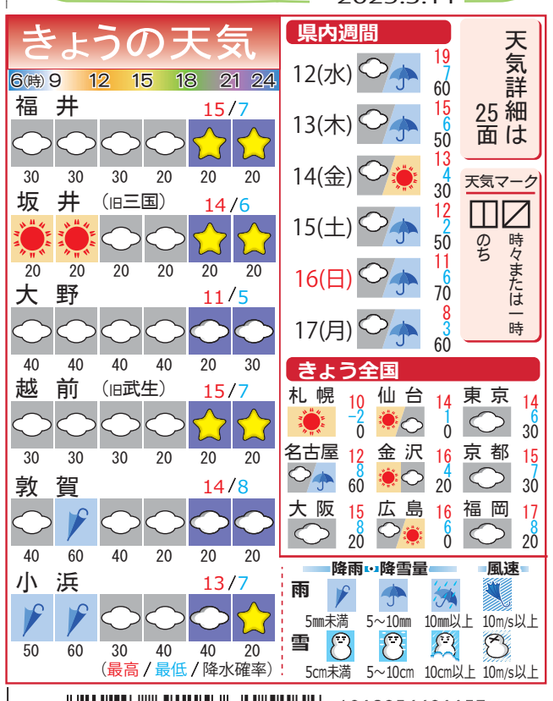
すでに生じた（煩悩の芽を）断ち切って、新たに植えることなく、現に生ずる（煩悩）を長ぜしめることがないならば、この独り歩む人を〈聖者〉と名づける。かの大仙人は平安の境地を見たのである。（釈迦）

〈解説〉煩悩とは私たちを煩わし悩ます心のはたらき、はたらきであるから、制御もできる。欲望がすき勝手に動きだすと煩悩になる。そこをよく知って、地道な努力を持続し習慣化する。このような人が聖者なのである。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2025.3.11

きょうの天気



4910856691153
00145

「血圧を自分で下げるコツ」
緊急増刷
薬に頼らず、自然治癒力で血圧を下げたい方へ
●体験談「血圧は自分で下げられる」
●高血圧の原因はドロドロ血液と血管の老化だった！
●高血圧のキーポイント「めぐり」と「サラサラ」に迫る
●簡単！15分で血のめぐりがグングンとUP！
●ドロドロからサラサラへ腹八分目が身体にいい理由
●1ヶ月で効果を実感！すぐにできる血圧改善法
●誰もが持つ「いのちの力」自然治癒力で健康になる
●医師も断言！「薬では本当の解決は得られません！」
●喜び、喜ばれ、いきいきと生きる（本書より抜粋）
読者の声
○分かりやすい内容で、すぐやろうと思いました。大阪府 50代 女性
○半信半疑で応募したけれど、役に立つ情報が載っていたので良かったです。長野県 60代 男性
○後で勧誘の電話があるのではと心配でしたが、そんなことは無く安心しました。茨城県 70代 女性
先着30名様プレゼント!!
イラスト付で読みやすい!!
累計35,000部発行!!
amazonでも販売中
発行：自然治癒力をともに高める会
定価：480円（税込）ISBN 4-938813-10-7
お申し込み
TEL (06)-6934-0255 福井 係
受付／平日9:00～17:00 ※土日祝及び時間外は録音テープにて対応しております。
FAX (06)-6934-5563 24時間受付 〒536-0008 大阪市城東区関目6-13-24 自然治癒力をともに高める会
●応募方法は、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してFAX、はがき、LINEで「小冊子希望 福井 係」へ。
※お預かりした個人情報は、小冊子のお届け、当社別商品のご案内などの情報提供にのみ利用し、他の目的には一切利用いたしません。
LINEからお申込み可！

驚愕のスクープ・インタビュー4時間半
統一教会と自民党
すべてを知る男の告白
国際勝共連合会長 梶栗正義
安倍元首相暗殺のキーマンが登場！
尹大統領を擁護する
特別対談 尹徳敏 武田良太
オピニオン特集
改革リーダー6人の提言
教育こそ最高の経済対策
西川徹 伊藤錬 小川久雄 重松象平 辻庸介 清水博
地面師
獄中からの告発 前編
森功
積水ハウス55億円詐欺事件
脳を守る
世界標準の認知症予防法
「4つのプログラム」の圧倒的な効果――古和久朋 神戸大学大学院教授
文藝春秋
4月号 定価1200円(税込)
電子版も発売中です。詳しくは 文藝春秋 電子版 検索
●主要コンビニエンスストアでも発売中です。●定期購読は書店または小社定期購読窓口まで。0120-622-808 https://www.bunshun.co.jp ●一部地域で発売日が異なります。ご了承ください。